

郵政民営化委員会（第207回）議事要旨

日 時：令和元年12月6日（金）15：30～17：10

場 所：永田町合同庁舎3階 郵政民営化委員会室

出席者：岩田委員長、米澤委員長代理、清原委員、三村委員
日本郵政株式会社 市倉専務執行役、小方常務執行役
日本郵便株式会社 根岸常務執行役員、上尾崎執行役員
株式会社ゆうちょ銀行 今井財務部長、岸執行役
株式会社かんぽ生命保険 堀金取締役兼代表執行役副社長

1. 議事

- ・ 「日本郵政グループの2020年3月期第2四半期（中間期）決算等について」（日本郵政グループ）

2. 委員会での説明・意見等

○ 日本郵政グループの2020年3月期第2四半期（中間期）決算等について【資料207-1】

① 説明の概要

- ・ 資料に基づき、郵政グループから決算概要を説明。

② 委員からの意見等

- ・ 物流事業が好調である主要な要因は、高付加価値の商品展開にあるのか、それとも、コストに見合った荷物の単価見直しにあるのか。
（⇒ 両面の要素があるが、特にゆうパケットは郵便と一緒に運べることから、運行上のメリットが大きい。また例えば、ゆうパケットプラスといった商品開発なども行っており、今後も引き続き、付加価値の高い商品展開を考えていきたい。）
- ・ トール社の収益が改善しないのは人件費の高騰など構造的な問題なのではないか。
（⇒ 人件費の高騰は前提として、間接部門の改善のためのIT投資の効果は順調に出てくるものと考えており、またアジアに成長の軸足を移していけるよう展開していきたい。）
- ・ 郵便の切手換金横領事件が報道されているが、情報開示の在り方含め、今後どのように改善していくのか。
（⇒ 事件の公表のタイミングについては、今後捜査の影響もふまつつ、ルールを整備していきたい。また、不正が起きないようにミーティングや研修も引き続き行っていきたい。）
- ・ ゆうちょ銀行の決算について、減収減益の傾向が続いているが、これを挽回するための手立てについて、どのように考えているか。
（⇒ (1)運用の高度化・多様化、(2)役務関係の収益の増加、(3)コストの適切な見直し、の3本柱で臨んでいきたいと考えている。）
- ・ かんぽ生命保険については、契約数が落ち込む一方で、中間純利益が上がっているという不思議な決算になっている。今の契約数の落ち込みが、実際に収益に影響として出てくるのはいつ頃になるのか。
（⇒ 新たに契約をいただいた場合、初年度は手数料として支出する分が多くなるため、利益としてはマイナスとなり、プラスに転じるのは13か月目以降となる構造である。したがって、今現在、募集できなかったことによるマイナスの影響は、概ね1年先から表れるものとする。）
- ・ かんぽ生命保険の不祥事の中での業績予想の上方修正となるが、顧客に対する信頼回復のビジョンについてどのように考えているか。
（⇒ 信頼回復は大きな課題であり、現在行われている当局の検査における指摘や、特別委員会における原因分析の結果等に対し真摯に対応するとともに、不利益を被ったお客様に対し丁寧に最後の1人まで対応するという姿勢を示すことで信頼回復に努めてまいりたい。）

－以上－

注) 議事要旨は事後修正の可能性があることに御留意ください。また、詳細については追って公表される議事録を御覧ください。